

富士見町有害鳥獣対策の現状

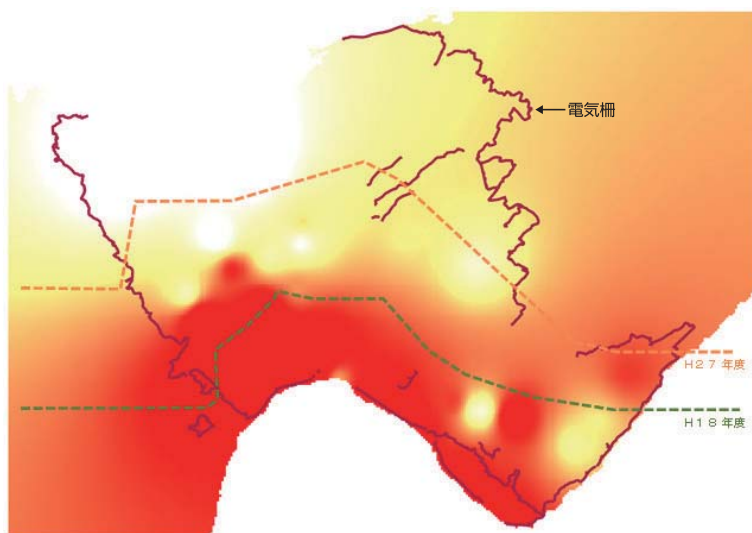
富士見町では、ニホンジカやニホンザルによる農作物被害が多く発生しており、今までに侵入防止のための柵の設置や捕獲対策を行ってきました。

しかし近年、柵の中に生息するニホンザルによる被害が深刻化しているため、その対策に力を入れて取り組んでいます。

ニホンザルはただ捕獲するだけでは被害を減らすことが出来ません。群れ社会を持っているため、群れが分散してしまうと被害も増えてしまいます。したがって、群れの管理など、生息状況をもとに対策することが必須です。群れの管理のため、これまでの目撃情報やアンケート調査をまとめ、状況の把握を行っています。



ニホンザルの分布域が拡大しています！



11月に皆様にご協力いただき行った全集落組単位アンケートによるとニホンザルの分布域が10年前より拡大し、北西側により侵出してきていることが判明しました。主に川の谷間やヤブを移動経路として使い、群れが分裂するなどして各所で被害が増えつつある状況がわかりました。この結果から、どの群れを対処すれば効果的に被害を減らせるかが分かってきます。また対策実施後の効果の検証にも活かすことができます。状況については追って報告会や広報等でお伝えしていきます。

▲富士見町サル出没ヒートマップ(サルの出没が多い箇所ほど濃い色になっています。)

対策協議会を開催しています！

被害対策においては、「まず相手を知らなければ対策効果は出にくい!」ということで協議会ではニホンザルの生態や防除技術を学びながら対策を進めています。これまで、ニホンザル対策の専門家の講義や対策のワークショップを行いました。ワークショップでは2班に分かれて遅い時間まで活発な議論が交わされ、「みんなで取り組む」対策の意識の共有ができました。



協議会と今後のサル対策の方針

<p>ワークショップで話し合われた 富士見町が取り組む獣害対策 (主にサル) 3大対策案</p> <p>1班</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 群れの数、個体数を把握する 2. 情報の共有 (集落・地域ごと) の方法も考える 3. 個体数を減らす 	<p>2班</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対策の計画 (目標) を立てる (確立する) 2. 出没情報の共有のための体制づくり 3. 個体数を減らす
--	---

協議会では、これまでの被害状況や対策状況を共有し、その後どのように対策をすすめるかを意見を出し合い決めてきました。獣害対策に必要なPDCA (計画・実行・評価・改善) をするための計画づくりについてしっかり話し合うことができました。今後は、群れごとにどのような対策をしていけばよいのか協議し、その対策方針に基づき事務局、専門家を交えて地域で対策ができる仕組み (追払い組織の結成など) を整え、サル被害の減少を目指します。



▲効果的な捕獲ができるよう捕獲技術を学びました

協議会の話合いの中でも出た捕獲技術について、協議会委員を中心にサル用わなの講習会を12月12日に開催しました。組み立てから仕組みまで学び、組み立てたものは地域に設置しています。捕獲したサルには発信器を取りつけ行動域を調査します。

ニホンザル被害対策にご協力下さい!



現在、富士見町にはおおよそ3群れ(+1)程度のニホンザルの群れが確認されています。特に瀨沢群については北西方向へ徐々に侵出してきている傾向があります。協議会では対策をすすめるにあたり、調査や捕獲を行っています。皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

《目撃情報の提供》

被害情報や目撃情報は群れの状況を知ることが出来る貴重な情報ですので、サルを見かけたら連絡をお願いいたします。

《わな設置用地について》

サルがいつも通る場所の所有者の方で、サル用箱わなの設置の承諾をいただける場合は連絡をお願いいたします。

産業課 農林保全係 ☎0266-62-9222

富士見町が取り組んでいる**野生動物被害対策の事業報告会**を行います。

◆日時:2月20日(土) 13時30分～ ◆場所:コミュニティ・プラザ 2階 大会議室
皆様お誘い合わせの上、お越しください。